

次世代に継承可能な体制整備に向け JGAP 認証取得(世羅町)

【平成31年2月19日掲載】

平成31年1月22日、世羅町で水稲52haを経営する(農)穂MINORI(組合員3名、代表理事 宇坪 實 氏(うつぼみのる))はJGAPの認証【穀物(玄米・精米)】を取得しました。

平成24年の法人設立当初20ha規模であった経営面積は、数年で2.5倍まで急激に増加し、拡大に併せ従業員の雇用人数も拡充を図ってきました。同法人は現在、20~30代の3名の従業員を雇用しており、2月末には新たに2名を雇用する予定です。しかし、短期間での急激な規模拡大に作業管理や人材育成等の運営体制が十分追い付かず、水稲単収も伸び悩む等の課題を抱えていました。

このような中、「技術は盗み、見て習得するもの」といった旧態依然の人材育成方法では、優秀な若い人材の確保・定着は難しいのではないか」との危機感から、次世代に継承可能な体制の構築を図るため、作業の手順や運営ルール等を明文化し、共有化を図る手法として、JGAPの認証取得に取り組みました。

「JGAPへの認証取得の取組を通じて、どのような作業手順書や記録様式が当法人の管理・作業改善にとって最も有効かなどの議論を重ねる過程で、従業員の結束力が一段と増した。」と、宇坪代表理事は本取組に係る効果を実感されています。

現在、同法人では、年間作業計画の事務所への掲示による作業進捗管理や、作業手順書の作成など「見える化」の取組推進により、優先順位判断による作業の最適化に取り組んでいます。

平成31年産からは新たに圃場管理ツールとして「アグリノート」を導入し、アナログ、デジタルの両手法を駆使しながらさらなる作業の最適化と、具体的なデータに基づいたPDCAが機能する体制構築をめざしていくこととしています。



JGAP 認証取得された (農) 穂 MINORI のみなさん

情報提供元

東部農業技術指導所